

南但ごみ処理施設計画を正式発表 バイオマス+焼却方式で環境にやさしく

朝来市と養父市で組織する南但広域行政事務組合はこのほど、建設予定の南但ごみ処理施設の事業概要を正式に発表。可燃ごみの処理方式を、バイオマス施設と焼却施設の併用型にするなどの概要を明らかにしました。

なぜ必要なの？



朝来市には現在可燃ごみ処理施設として、クリーンセンター朝来事業所があります。この施設は稼働後18年を経過しており、近く更新時期を迎え、新たな設備が必要となります。養父市でも同様に、施設の更新時期を迎えています。

こうしたことから、両市が共同してごみ処理場の建設に取り組み、建設コスト、維持管理コストを大幅に抑えようとするものです。

建設予定地となるのは和田山町高田地内(右岸道路沿い)で、可燃ごみ処理施設とリサイクルセンターの2施設を整備。平成24年秋の供用開始を予定しています。

可燃ごみ処理施設

処理方式は、「バイオ施設と焼却施設を組み合わせた方式」を採用します。

「バイオ+焼却」方式は、紙類、ビニール・プラスチック類などの燃えやすいごみは焼却施設で焼却。生ごみ、湿った紙くずなどの燃えにくい

ごみはバイオガス施設でエネルギー化し、ごみの性状に適した処理を行うことができます。そのため、ごみの減量化が進めやすくなるのがメリット。また、施設内で発生したバイオガスは施設の電力をまかなう発電エネルギーとして使用されます。

現在、両市の可燃ごみは一日8時間焼却処理をしています。今回採用されたこの「バイオ+焼却」方式は、24時間運転で、8時間運転の現行施設に比べて有毒なダイオキシン類の発生が効果的に抑えられるほか、燃えやすいごみだけを焼却処理するため、施設の規模は、両市の現有施設の約6割とコンパクトになります。

リサイクルセンター

不燃ごみと大型ごみを破碎した後、資源物・可燃物・不燃物に分別するラインと、資源ごみが必要に応じて選別・圧縮するラインを設け、ストックヤード(資源ごみ保管所)に一時保管します。

その他、再生利用可能なものを修理・再生する工房や、再生品の展示、環境学習などにも利用できる施設を計画しています。

【現状との比較】

＜現在の施設＞		＜今回計画している施設＞	
施設名	施設規模	施設名	施設規模
朝来市クリーンセンター朝来事業所	20 t / 8 h × 2 炉 = 40 t	焼却施設	概ね 45 t / 24 h × 1 炉 = 45 t
養父市琴弾クリーンセンター	18 t / 8 h × 2 炉 = 36 t	バイオガス化施設	概ね 30 t / 日
計	76 t		

ごみの減量化を進めましょう



南但ごみ処理施設は、南但馬地域住民の衛生的な生活環境を維持していくためにはなくてはならないもの。しかし、ごみの減量化と資源化には、皆さん一人ひとりの取り組みが何より大切。積極的な5R※の推進にご協力をお願いします。

組合は、今年1月から、近隣地区住民を中心に説明会を実施し、環境影響評価の結果などを報告。今後説明会を開き、皆さんの理解を深め、事業推進していきます。



南但ごみ処理施設の建設予定地(和田山町高田地内)

※ごみの5Rとは…

- ①リデュース(ごみになるものを減らす)
- ②リフューズ(不要なものは受け取らない)
- ③リペア(修理して長く使う)
- ④リユース(何度も繰返し使う)
- ⑤リサイクル(再生利用する)